巻頭言
石川雄一教授の定年退職を送る

本研究論集は留学生センター教員の研究を発表し、広くその成果を社会に還元するために毎年編集されているものです。平成４年に６名の専任教員で出発した留学生センターも、現在は９名の専任教員を有する大きな教育研究組織に成長しており、それに伴ってこの研究論集も年々充実したものに成長を重ねています。本号は特に、平成１９年３月をもって定年のために退職される石川雄一教授の本学への貢献を讃えるとともに、その御業績を記録する特集号を兼ねています。

石川雄一先生は平成１２年９月に本学に赴任され、主に留学生センターにおいて短期留学プログラム（JOY, Junior Year Overseas Program at Yokohama National University）を担当され、プログラムの発展に多大な貢献をされました。このプログラムは平成９年 10 月から開始されており、私が初代の担当教授を３年間勤めましたので、石川先生には二代目の担当教授をお勤め頂いたことになります。

留学生プログラムの運営にあたっては、その制度を確立するだけではなく、様々な国から来日する、その文化的背景も生活習慣も多様な学生達を相手に、きめの細かな教育的対応をすることが日常の重要な業務となります。石川先生の本学への貢献は、短期留学制度の確立を達成されたのみではなく、まさに多様な学生達の現実に対して、柔軟にしかも個々の事例に即した的確な指導をされたという点にもあると思います。

留学生をはじめとする諸外国の大学への対応も多様ですが、横浜国立大学内部の各学問分野や各学部の留学生に対する姿勢も、それらの分野の置かれた社会的な状況の中で様々です。このような二つのそれぞれに多様な社会を結ぶコーディネーターの役割がいかに多岐にわたる多くの配慮を必要とするものであるかについては言をまたないと思います。留学生センターを代表して先生のご貢献に深く感謝を申し上げます。

横浜国立大学　留学生センター長
柴山知也（工学研究院教授）